

## 報告書第7号 第2弾 野菜の栽培(根菜類) 1, 2, 3月

### ≪活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者とのかわり≫

3学期に入り子どもたちから「**また野菜育てたい!**」という嬉しい声が多く聞かれた。そこで今度は「**どんな野菜を育てたいか?**」を子どもたちに聞いてみると「きゅうり」「枝豆」「ナス」「ピーマン」と1学期に育てた野菜の名前が多く出てきた。その他にも「トマト」「オクラ」といった声もあった。やはり育てている際に生長の様子が見られる野菜、「<sup>かさいるい</sup>果菜類」が子どもたちにとって分かりやすいようである。

ということで・・・3学期はあえて「**育っている様子が見られない、土の中で育つ野菜を育ててみない?**」と投げかけてみると、初めのうちは首をかしげる子もいたが、すぐに答えを求めず様子をうかがうと、中には一生懸命考え始める子や図鑑で探す子、(野菜の実り方が載っている)仕掛け絵本を見る子、あらゆる知っている野菜の名前をあげる子と様々出てきた。このような主体的に行動する子どもたちの姿に成長を感じることができた。



子どもたちから提案された野菜すべてを育てるには、季節的にも(寒さのため)難しく、今回は土の中で育つ「根菜類」の中から今の時期でも比較的育てやすい春蒔き野菜



「**小さい大根**」「**小かぶ**」「**二十日大根の3種類**」を育てることとなった。

いよいよ種蒔きと言いたいところだが今回は、1学期の振り返りから実際に土に触れる畑作りも子どもたちと一緒にすることにした。畑と言ってもプランター栽培だが、子どもたちにとっては畑に匹敵するくらいのサイズに感じられるようである。

**そして、一番重要な培養土運び!**

**まずは畑となるプランターを5つ用意!**

**皆で力を合わせて「よしよ!よしよ!」**



今度は友達が一生懸命運んでくれた土を  
プランターに入れて、土ならしを！



今回の畑作りでは、大人が一人で持つのも大変な重さの  
培養土の袋（1袋25ℓ）を友達と力を合わせて運んだり、  
時には引きずったり、力持ちのお友達を呼んで来たりと  
子どもたちだけで7袋の土を運びきっていた。

「大変だー！重いよー！助けてー！」の大合唱💦

大騒ぎしながらも子どもたちの顔は笑顔に満ちていた。

プランターに土を入れる作業も丁寧で、「こぼさないよう  
にしくっちゃ。」「ふかふかのベットにしないとね。」と  
それぞれの作業を分担しながら、楽しそうに取り組む子  
どもたちだった。

さあ、いよいよ種まきの開始です！！



それぞれの種を見て子どもたちは、大騒ぎしていた。

「これが種？」「小さーい！！」「ふーってしたら、飛んでっちゃいそう。」「こんな（小さな）種が大根になるの？？無理でしょう。」「早く大きくなって欲しいなあ～。」「二十日大根と大根って違うの？」と色々な声が聞かれた。1学期は苗からの栽培だったこともあり、種を見てあまりの小ささに目を真ん丸にし、驚いていた。他の野菜の種も見たいと興味を持つ子も出始め、子どもたちの思いは膨らんでいった。

実際の種まき・・・



同じところには  
蒔かないよう  
に気を付け  
なくっちゃ！

あっ、落ちちゃった😱

（こぼれ落ちてしまいました。）



どこに蒔こうかな？  
そおっと！  
そおっと！



どこに蒔いてある  
のかな？？わかん  
なくなっちゃう  
ね！

野菜の看板もつけ  
て出来上がり！



水いっぱい飲んでね。



同じところにあげ過ぎると、種が動いちゃう（流れちゃう）から  
気をつけてって先生が言ってたね。



子どもたちは、1学期の野菜の栽培を通して保育者が言ったことや本から学んだことをしっかりと覚えている姿があった。また、自分たちで声を掛け合い、時には確かめ合いながら水やりも行っていた。さあ、看板を立てたら畑の出来上がり！！

**畑の完成 🌱 いよいよ栽培スタート！！**



種蒔き：2025. 1. 21

種蒔きをした日の午後砂場では、  
お皿の入れ物をプランターに、そして石を種に見立て「種蒔きごっこ」遊びが展開されていた。



1週間ほどで発芽するはずですが、寒い時期に種蒔きをしたこともありなかなか芽が出てきません。そこで、不織布をプランターに掛け少しでも寒さから守れるように工夫することにした。子どもたちはこの不織布を「布団」と呼んでいます。登園すると気付いた子が布団をはずし、畑にお日様の日を当ててあげ、水やりを！そして、曇りの日は布団を掛けたままにするなど、今は天気を気に掛ける子どもたちです。

時に寒い日の朝、布団をはずすと土が盛り上がり「先生大変！！氷みたいなのがあるよ。」と。霜柱がはっていた。霜柱を初めて見た子はびっくり💩💧「病気になっちゃったの？」と心配する声も聞かれたが、それを聞いていた年中組のお兄さんは「寒いから霜柱ができたんだよ！大丈夫。」と教えてあげていた。中には「先生寒いんだったら、お湯掛けちゃえばいいよ。」とも。子どもたちなりに色々対策を考えているようである。そこには他学年のお兄さんお姉さんも加わり、アイデアを出し合う姿が見られた。他学年の子どもたちも興味を持ち始め、学年を超えての活動にもなり始めてきた。

### 布団はずし！



### お兄さん・お姉さんからのアドバイス



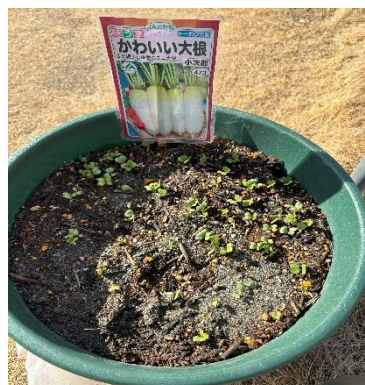
雪が翌日降りそうなどきは、お布団も多めにかけ、屋根のある所にお引越し！！



### そして、種蒔きから2週間経ったある日…ついに！！



### 更に種蒔きから3週間後…



やっと芽が出始めてきた🌱

しかし、寒さは続き実がなるまでには、大分時間がかかりそうである。

## 更に生長し・・・



こんなにもたくさん芽が出てきた。しかし、「狭そうだね。」と子どもたち。このままではお野菜も大きくならないのでは??? 図鑑や資料を見て「間引く」ことをしなくてはいけないことを知りました。

実際に「間引く」とは・・・今回子どもたちと適当に種を蒔いたため、このようにいっぱい発芽し、プランターの中は窮屈そうです。このままだと十分な栄養がいきわたらないということで、元気な苗だけを残し、間隔をあけることで日当たりや風通しもよくなり栄養をいっぱい吸収した野菜が育つということでした。

このことを知った子どもたちは、楽しそうに苗を抜く子もいれば、せっかく芽が出たのに可哀そうという子もいました。しかし、間引かないとせっかく出た芽が大きくなり、ダメになってしまうことを知ると、抜く苗を一生懸命吟味しながら、真剣な眼差しで取り組んでいた。



中には、間引きのプロフェッショナルの子も出てきたくらい、よく観察したり、友達と相談したりして抜き、野菜の生長を見守る子どもたちだった。



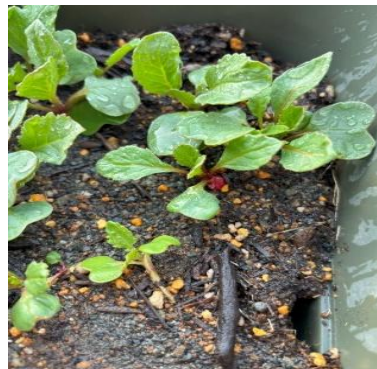
第1回目の間引きでは、こんなにも多く抜くこととなった!!

そしてすっきりとなったプランター。

「もっと大きくな～れ」と願う子どもたち。



**間引きの成果もあり・・・** 各野菜はこんなにも生長し始めました!!



## 新しい発見に向け…新アイテム登場！！

子どもたちが色々なことに気づいたり、発見したりできるように虫眼鏡をおいてみることに。



虫いないかな??

でも虫がいたら、葉っぱ食べられちゃう💧

あれ、いろいろな形のはっぱがある。



ラディッシュみつけたー！！

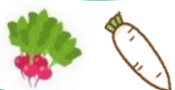
大きくなってる◎



※虫好きの子は虫を見つけられ喜ぶ半面、野菜を守らなくては！！という思いも持っていました。

虫眼鏡を通して「お日様を見ちゃいけないんだよ」と使い方も学び、他のクラスの友達に教えてあげたり、発見したことを自慢げに伝えたりし、探究心が更に感じられ、子どもたちにとっては素敵なアイテムとなった。残念ながら季節が冬と言うことで虫を見つけたり、虫に葉っぱを食べられたりといったことはなかった。そのようなことも季節によっては体験できたのではないかと感じた。

## いよいよ収穫



3月というのに雪の降る寒い日。この日を逃しては、ということで一人ひとりが自分の好きな二十日大根かラディッシュ、赤大根を選んで抜きました。今回は収穫のみで、自分で収穫した野菜を家に持ち帰りました。



抜けたー！

赤い大根だった！！



ラディッシュだったね♪



これに決めた！！



おっきーよ！ヤッター！



どれにしようかな？



ラディッシュ  
丸くてかわいい！



ちょっと、  
採るの難し  
い！



土の中に隠れている野菜の種類や大きさ、形が分からず・・・イメージを膨らませながら、抜く苗を真剣に選ぶ子どもたち。

まるでくじ引きを引くかのようで、友達が抜く度に一喜一憂していました。

## 《振り返り》

今年度2回目の野菜の栽培ということで、1回目に振り返ったことを子どもたちと話し合いながら、栽培に取り組んだ。畑作りでも、保育者が用意するもののイメージができていたこともあり、自分たちで意欲的に土を運んだり、プランターに土や肥料を入れたり、進んで行う姿があった。また、寒さとの格闘もあった。時期的に春蒔きの種しかなく、生長が心配された。案の定今年は3月まで雪が降ることもあり思うように生長せず、なかなか大きくなりそうしたら大きくなるか悩む姿もあった。しかし、その分ゆったりとした時間の中で虫眼鏡を使って野菜の生長を見守ったり、発見したり、寒さ対策をしたりできた。子どもたちなりに野菜を育てる大変さも少しだが感じたようで、「お店で売ってる野菜はすごいね！」「だって大きいもん！」などという言葉が自然と出てきていた。残念なことに小かぶと小さい大根の生長が間に合わず、今年度中に収穫することはできなかった。子どもたちはこの2種類の野菜の生長を見守り、収穫できるまで次年度も続けてみたいという思いも芽生え、保育者としては嬉しい限りである。また、自然と共存する難しさを、子どもたちと共に保育者も感じた取り組みとなった。